

令和 5 年度宇治市統一学力調査（学びのステップアップ）の結果について

1 目 的

宇治市における学力の課題を解決するため、子ども一人ひとりの、学校や家庭での学習を充実させ、学力調査による学力分析データを活用し、低学年から強みと弱みを把握して授業改善に生かし、基礎学力の定着と家庭での学習習慣を確立する。

2 対 象 宇治市立全小学校第 2、3 学年

3 内 容

（1）教科に関する調査 国語、算数の 2 教科（出題範囲は当該学年の 10 月までの学習内容）

（2）質問紙調査

4 実施時期 令和 5 年 11 月 20 日（月）～24 日（金）までの各校の設定日

5 実施時間 1 教科 45 分（学力調査 40 分＋意識調査 5 分）

6 実施児童数（令和 5 年度実施分）

	小学校 第 2 学年	小学校 第 3 学年
国語 受検者数	1309 人	1363 人
算数 受検者数	1309 人	1358 人
実施校数	22 校	22 校

7 調査結果

(1) 小2

小2	集計項目	正答率	小2	集計項目	正答率
国語	教科総合	78.5	算数	教科総合	78.0
	観点1 知識・技能	90.6		観点1 知識・技能	83.9
	観点2 思考・判断・表現	67.4		観点2 思考・判断・表現	55.7
	領域1 言葉・情報・言語文化	90.6		領域1 数と計算	73.5
	領域2 話すこと・聞くこと	89.5		領域2 図形	85.4
	領域3 書くこと	49.6		領域3 測定	77.9
	領域4 読むこと	59.1		領域4 データの活用	90.4

小2 質問内容	母集団	肯定的に回答した割合 (%)	選択肢別回答割合 (%)			学力層別 ※25%ずつの4分割 肯定に回答した割合 (%)				
			はい	いいえ	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1 授業中に班やグループになって、友だちといろいろな考えを伝え合おうとしている。	宇治市	73.9	73.9	23.7	2.4	75.4	77.2	75.8	74.6	0.8
2 自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている。	宇治市	73.6	73.6	24.2	2.2	77.8	79.1	74.8	68.8	9.0
3 言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細かな心の様子や情景を伝えようとしている。	宇治市	74.8	74.8	22.8	2.4	83.4	79.3	75.5	67.6	15.8
4 同じような言葉でも細かな意味の違いがあることを、例文を作ったり文章を書き直したりして確かめている。	宇治市	72.5	72.5	24.7	2.8	74.8	79.3	74.5	69.5	5.3
5 わからない単語や表現があれば、辞書などでしっかりと調べて使うようにしている。	宇治市	73.5	73.5	23.6	2.9	76.0	74.5	81.0	71.0	5.0

質問番号	小2 質問内容	母集団	肯定的に回答した割合 (%)	選択肢別回答割合 (%)				学力層別 ※25%ずつの4分割 肯定に回答した割合 (%)				
				はい	いいえ	その他無回答		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数の授業で、図をかいたり動かしたり、大きさや長さを測ったりしながら考えるのは楽しい。	宇治市	79.2	79.2	19.2	1.6		84.9	82.8	77.8	76.2	8.7
2	難しい問題でも、何とかして解こうとして、いろいろな考えを試したり方法を工夫したりしている。	宇治市	82.0	82.0	16.2	1.8		90.5	85.0	84.3	73.5	17.0
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	宇治市	81.5	81.5	16.7	1.8		88.2	86.3	81.7	75.5	12.7
4	自分の解き方を振り返って、良いところやわかりにくいところ、工夫しているところなどを考えるようにしている。	宇治市	76.9	76.9	21.3	1.8		82.2	80.2	78.2	72.3	9.9
5	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	宇治市	82.3	82.3	15.7	2.0		85.2	86.3	84.9	79.3	5.9

(2) 小3

小3	集計項目		正答率	小3	集計項目		正答率
国語	教科総合		60.2	算数	教科総合		70.1
	観点1	知識・技能	71.1		観点1	知識・技能	75.6
	観点2	思考・判断・表現	53.5		観点2	思考・判断・表現	56.8
	領域1	言葉・情報・言語文化	71.1		領域1	数と計算	69.8
	領域2	話すこと・聞くこと	75.3		領域2	図形	72.2
	領域3	書くこと	31.0		領域3	測定	68.9
	領域4	読むこと	43.3				

小3 質問内容	母集団	肯定的に回答した割合 (%)	選択肢別回答割合 (%)					学力層別 ※25%ずつの4分割 肯定に回答した割合 (%)				
			よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1 授業中に班やグループになって、友だちといろいろな考えを伝え合おうとしている。	宇治市	71.4	34.3	37.1	17.5	2.9	8.2	84.5	80.4	75.2	70.1	14.4
2 自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかななどを振り返っている。	宇治市	64.7	21.3	43.4	21.5	5.1	8.7	81.0	74.7	67.7	58.6	22.4
3 言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細かな心の様子や情景を伝えようとしている。	宇治市	68.6	30.4	38.2	18.0	4.5	8.7	87.2	80.3	74.4	56.7	30.5
4 同じような言葉でも細かな意味の違いがあることを、例文を作ったり文章を書き直したりして確かめている。	宇治市	63.0	27.7	35.3	22.2	5.8	9.0	79.0	74.5	66.6	54.8	24.2
5 わからない単語や表現があれば、辞書などでしっかりと調べて使うようにしている。	宇治市	61.6	28.4	33.2	20.0	8.4	10.0	74.8	74.4	65.5	57.3	17.5

質問番号	小3 質問内容	母集団	肯定的に回答した割合 (%)	選択肢別回答割合 (%)					学力層別 ※25%ずつの4分割 肯定に回答した割合 (%)				
				よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数の授業で、図をかいたり動かしたり、大きさや長さを測ったりしながら考えるのは楽しい。	宇治市	76.5	46.9	29.6	13.7	5.3	4.5	86.1	89.1	77.6	66.2	19.9
2	難しい問題でも、何とかして解こうとして、いろいろな考えを試したり方法を工夫したりしている。	宇治市	76.7	42.5	34.2	14.5	4.3	4.5	88.5	84.6	79.5	67.5	21.0
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	宇治市	78.6	44.2	34.4	13.0	3.6	4.9	89.4	89.7	82.1	67.8	21.6
4	自分の解き方を振り返って、良いところやわかりにくいところ、工夫しているところなどを考えるようにしている。	宇治市	68.5	32.2	36.3	19.3	7.0	5.2	79.1	76.9	73.9	57.8	21.3
5	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところやもっと工夫ができるを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	宇治市	74.7	41.0	33.7	14.8	5.2	5.3	87.6	82.4	77.0	67.2	20.4

8 結果概要

- (1) 小2・小3とも国語科の「書くこと」「読むこと」の正答率が他の領域に比べて低く、学力定着に課題がみられる。
- (2) 小2・小3とも算数科・国語科「思考・判断・表現」の正答率が他の観点に比べて低く、「思考・判断・表現」観点の学力定着に課題がみられる。
- (3) 小3国語の質問紙「自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている」「言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細かな心の様子や情景を伝えようとしている」「同じような言葉でも細かな意味の違いがあることを、例文を作ったり文章を書き直したりして確かめている」の項目では、各学力層の肯定的に回答した割合において、A-D層の差が大きく、低位層児童が主体的に学習に取り組めていない状況が考えられる。
- (4) 小3算数の質問紙「難しい問題でも何とかして解こうとしていろいろな考えを試したり方法を工夫したりしている」「新しい問題を解くときにこれまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか考えるようにしている。」「自分の解き方を振り返って良いところやわかりにくいところ工夫しているところなどを考えるようにしている。」の項目では、各学力層の肯定的に回答した割合において、A-D層の差が大きく、低位層児童が主体的に学習に取り組めていない状況が考えられる。

9 課題に対する対応

(1) 家庭との連携について

- ①児童の学習習慣の確立を目指し、学力調査結果をもとに、子ども一人ひとりの強みと弱みを保護者と共有する等、学校と家庭が連携して家庭学習の取組を進める。
- ②就学前からの読書習慣形成に向けて、家庭、学校、教育委員会、就学前施設、市長部局等の連携を深め、本に親しみ、進んで読書に取り組む態度を養うための取組を推進する。

(2) 子どもの学びについて

- ①学力調査結果を活用して子ども一人ひとりに応じたカリキュラムを作成し、タブレット端末等を活用してドリル学習を行う。さらに確認テストにより達成度を診断し、つまずきの克服に取り組む。
- ②各校の学力向上の取組アクションプランに、本調査の分析を反映し、以下の観点から具体的な取組を進める。
 - ア 全国学力・学習状況調査結果と同様に「書くこと」「読むこと」領域、「思考・判断・表現」観点到課題がみられる。小学校低学年の早い段階から課題を焦点化し、「様々な教科でふり返りや感想を書く活動を多く取り入れる」「読み聞かせや、学習内容に関連する図書の活用等、読書活動の充実を図る」「学習した知識・技能を活用して表現する機会を充実させる」等、有効な手立てを継続的に講じる。
 - イ 学習が苦手な児童であっても、主体的に自分の考えを伝えたり、自分の学習を振り返ったりする活動を確保できるよう授業改善を進める。

(3) 経年データの活用について

令和6年度は2回目の実施となることから経年データで児童の学力推移を分析。教科学力や学習意識の変化、校内成績層(4層)ごとの回答状況の変化等を分析し、取組の検証を行う。